

4 自然災害時の電気

POINT 自然災害発生時には停電の可能性が高くなります。皆さん一人ひとりが日頃から「自分の安全は自分で守る」心構えをしておくとともに、さまざまなことに対して対策を考えておくことが大切です。

災害時における電気の対処

スイッチを切りプラグを抜いて

特に火事の原因となりやすい電気ストーブやアイロン、ドライヤーなどの電気製品は、すぐにプラグをコンセントから抜くことを心がけましょう。



漏電ブレーカーは「切」にして避難

災害時に家の外へ避難するときは、電気が原因で火災を起こさないように漏電ブレーカーを必ず「切」にしてから避難してください。



ガス臭いときはスイッチに触らない

家の中にガスの臭いがしたときは、電気のスイッチをつけると、火花が飛んでガスに引火するおそれがあるので、絶対に触らず、使用しないでください。



水にぬれた電気製品は必ず点検

電気製品や配線類が浸水や漏水などで水にぬれてしまったときは、漏電などの原因になりますので、必ず電気店などでしっかり点検してください。



戸外では電線に注意!

災害で切れた電線には触れないようにご注意ください。見つけたらすぐ関西電力に連絡してください。

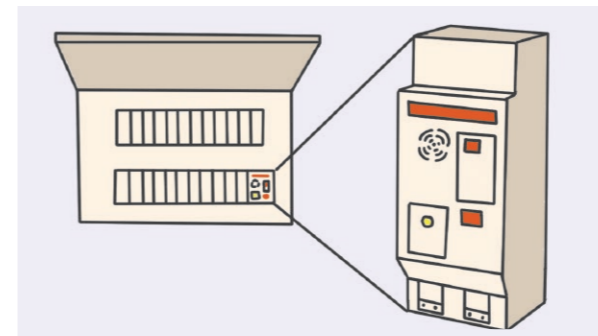


感震ブレーカー

地震では、電気が主な火災発生原因の一つとなっています。感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的に漏電ブレーカーを落として電気をしゃ断。地震による電気火災を防止するためにも、感震ブレーカーの設置をおすすめします。

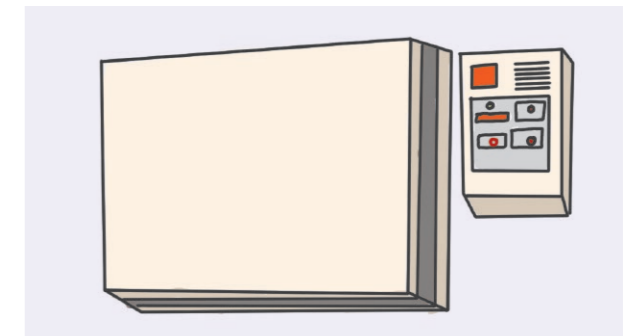
分電盤タイプ(内蔵型)

分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、漏電ブレーカーを落として電気をしゃ断。電気工事がが必要です。



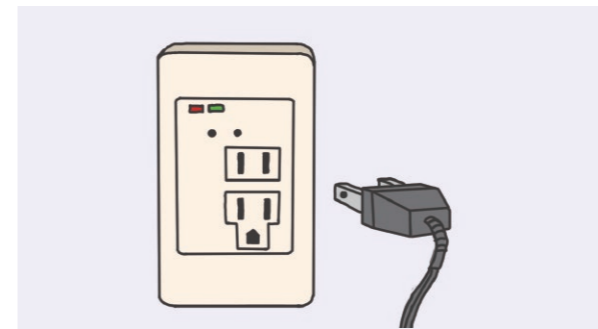
分電盤タイプ(後付型)

分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。電気工事がが必要です。



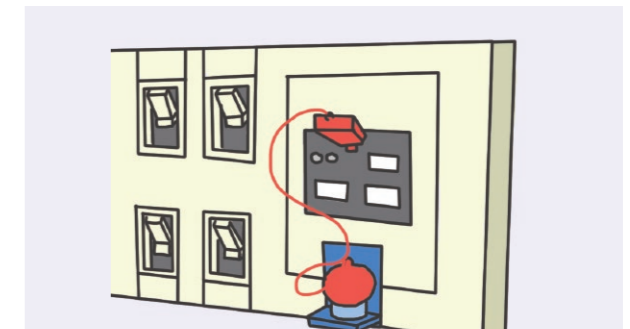
コンセントタイプ

内蔵されたセンサーが揺れを感知し、電気をしゃ断。工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがあります。



簡易タイプ

ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気をしゃ断。電気工事は不要で、経済的ですが、他のタイプと比べると信頼性が低くなります。



詳しくは下記のホームページをご参照ください。
 ●経済産業省ホームページ http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html
 ●内閣府ホームページ <http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/index.html>